

対談

キム・チュイ（作家）× 吉岡忍（日本ペンクラブ会長）
KIM THUY (ÉCRIVAINNE)
SHINOBU YOSHIOKA (JAPAN P.E.N. CLUB)

7月1日（月）18時30分より 聖心女子大学 3号館内 宮代ホールにて
東京都渋谷区広尾4-3-1（地下鉄日比谷線2番出口より徒歩2分）
入場無料、フランス語から日本語へ逐次通訳付き

Lundi, 1er juillet à 18h30, Miyashiro Hall,
Université du Sacré-Coeur

KIM THUY / キム・チュイ

1968年ベトナムのサイゴン（現ホーチミン市）生まれ。ベトナム戦争の余波を受け、家族とともにボートピープルとして故国を脱出。カナダに移民申請を行い、ケベック州に居を定める。モントリオール大学卒業後、弁護士、翻訳者、レストラン経営者、テレビタレントとして幅広く活躍。自身の難民としての体験を描いた自伝的小説Ruは2010年、カナダ総督賞を受賞した。本書は、『小川』というタイトルで邦訳された（山出裕子訳、彩流社、2012年）。また、本書は25カ国語に翻訳され、世界中で刊行されている。他の作品にÀ Toi, Mân, Viなど。昨年、ニュー・アカデミー文学賞の47人の候補から、村上春樹ほか、カリブ海仏領グアドループ出身のマリーズ・コンデ、英国出身のニール・ゲイマン、そして、今回来日するキム・チュイが最終候補に残ったことで、世界からも注目されている。



吉岡 忍 / SHINOBU YOSHIOKA

作家。長野県出身。早大在学中に反戦運動参加後、数十カ国を取材。1986年『墜落の夏』で講談社ノンフィクション賞。BPO放送倫理検証委、番組各賞の選考委員を歴任。2017年より第17代日本ペンクラブ会長。主な著書に『「事件」を見にゆく』『日本人ごっこ』『M/世界の、憂鬱な先端』（以上文春文庫）、『新聞で見た町』『路上のおとぎ話』（以上朝日新聞社）、『散るアメリカ』（中公文庫）、小説『月のナイフ』（理論社）、『奇跡を起こした村のはなし』『ある漂流者のはなし』『ニッポンの心意気』（以上ちくまプリマー新書）、『ペンの力』（集英社新書）『堀田善衛を読む 世界を知り抜くための羅針盤（共著・集英社新書）などがある。



Québec



主催：日本ペンクラブ
後援：聖心女子大学・ケベック州政府在日事務所